

チャイロスズメバチ

平成22年9月中旬に市民から「今年も2階ベランダの下から小さなハチが入り出ています。ただ、スズメバチは何度も見ているのですが、今回のハチは、スズメバチ特有の黄色と黒の縞模様がありません。スズメバチでないような気がしますが、人を攻撃するような気配を見せますので心配です。」との相談が保健センターに入りました。担当者も電話での聞き取りに限界を感じ、現場に急行されました。現場で1匹のハチを捕まえることができました。見たことのないハチでした。図鑑を調べ、チャイロスズメバチであると判断されたうえで確認のために衛生環境研究所に標本が送られてきました。保健センターの担当者が判断したとおりの結果でした。体長は、2センチメートルほどです。特に腹部の色は、茶色一色で他のスズメバチ類とは容易に区別できる色彩です。

初めてのチャイロスズメバチ

チャイロスズメバチは、常に見られる種類ではありません。

事実、私は、昭和46年から約10年間、京都市のスズメバチ駆除に携わっていましたがチャイロスズメバチを見たことはありませんでした。

ところが5年前のことです。ハチの駆除をしている業者さんが「珍しいハチを駆除してきました。チャイロスズメバチです。」と標本を持参されました。私が初めてチャイロスズメバチを見たときでした。採集された場所は、清滝付近の山間の住宅でした。

京都市内定着

インターネットを検索してみるとペットボトルを利用したスズメバチの捕獲器（トラップ）を紹介したページがたくさん見られます。今年の春に京都市の保健センターに働く職員の方が実際にトラップを仕掛け、スズメバチが取れるのか、取れるとしたらどのような種類なのかを調べられました。左京区と東山区で仕掛けたトラップでチャイロスズメバチが採集されました。いずれも採集された時期、大きさから女王バチと思われる個体でした。

チャイロスズメバチの営巣が幾つか確認されていること、トラップでも女王バチが採集されるなど、京都市内でチャイロスズメバチが定着しているのは間違いありません。

巣の乗っ取り

冬眠から覚めた女王バチには、自身のえさ集め、巣作り、産卵、幼虫の給餌（きゅうじ）など多くの仕事が待ち受けています。最も大変なときです。その時期にチャイロスズメバチの女王は、キイロスズメバチやモンズメバチの巣に侵入し、その巣の女王バチを殺し、その巣の女王に成り済みます。そして、自分の幼虫をその巣にもともという働きバチに世話をさせます。乗っ取りさえ成功すれば、チャイロスズメバチの女王は、最も大変な時期を比較的簡単に過ごせることになります。

仲間認識フェロモン

スズメバチ類は、同じ種類であっても、他の巣の働きバチの侵入は許しません。これは、体表のにおい物質で、同じ巣の仲間なのか、別の巣の仲間なのかを識別しているといわれています。チャイロスズメバチは、巣を乗っ取る時に仲間を識別するにおいを麻痺（まひ）させる方法をもっているのか、あるいは、他の巧妙な方法を知っているのか興味が尽きません。



現場で採集したチャイロスズメバチの働きバチ



働きバチの腹部の背面



トラップで取れた女王バチ(側面)



トラップで取れた女王バチ(背面)